

どうして野菜に花が咲くの？

学校法人鹿児島竜谷学園 和光幼稚園（鹿児島県鹿児島市）

[5歳児]

夏野菜の栽培

5歳児は、毎春、市内を流れる甲突川辺りで開かれる恒例の「春の木市」に出かける。「木市」では季節の草花を楽しむと共に、いろいろな花や野菜の種苗の中から自分で育てたい野菜の苗を買い求める。一人一鉢で育てることが、5歳児学級になった「証し」のように定着し、子どもたちにとって楽しみにしている活動である。キュウリ、トマト、エダマメ、ピーマン、オクラ、レタスなどの苗が選ばれ、中でもトマトが一番人気であった。



[5月]

土に肥料を混ぜて、栄養のある土を作ることを知り、一生懸命手で混ぜ合わせた子どもたちは、この日から愛情一杯に自分の鉢を大切に育て始めた。毎日ペットボトルのジョウロで、たくさんの水をあげては「実はまだかな？」と、つぶやきが聞こえる。すぐにでも、トマトやキュウリが生りそうな思いである。



[6月]

しばらくすると、なかなか実ができない野菜に興味をなくし始め、水かけの世話をする子どもも徐々に少なくなり始めた。しかしちょうど良いタイミングで梅雨に入り、苗はすくすく育っていた。それでも数名の幼児は、大切に育てたいという思いから、雨の中でも傘を差して水をあげに行っている。



[7月]

トマト・キュウリ・エダマメを植えた幼児も徐々に収穫し、家庭に持ち帰る。オクラを植えた幼児は、「どうして大きくなるのか」と残念そうである。レタスを植えた幼児は、多雨のため、収穫する大きさに育たない自分のレタスをちぎってウサギに食べさせ、とても満足した様子であった。

<どうして野菜に花が咲くの？>

A児が、「僕はピーマンを植えたけど、花は植えてない。どうして花が咲くの？」と不満そうな様子である。担任の植えたキュウリの苗にも花が咲いた。それを見て、「どうして野菜に花が咲くの？」と不思議そう。「これ、キュウリの花なの？野菜にも花が咲くんだー」と花を覗き込んでいた。思いもしなかった子どもの言葉に驚き、保育者が「よく気が付いたね。さすがAちゃんだね」と認めると、喜んでいて。部屋に帰るとB児が、「野菜は花が咲いてからできるんだよ。ほら！」と見つけた野菜の絵本(図鑑)を、A児と一緒に見ていた。それから毎日、A児は自分のピーマンを見に行っていた。数日後、ピーマンの花の後に小さな赤ちゃんピーマンができていたことを発見。ピーマンを前に、その喜びを友達と一緒に分かち合う事ができた。

<本物になったキュウリを食べよう>

「先生のキュウリ、本物になっているよ」・・・保育者が植えたキュウリが、一番に収穫できた。薄切りにし、塩もみにして、クラスみんなでいただいた。普段、野菜をあまり好んで食べない幼児も「美味しいよ」という友達の呼びかけに誘われ、みんなで食べる美味しさを味わうことができた。

[考察]

- ・「どうして花が咲くの？」というA児の疑問は、栽培への関心が薄れかけていた時だっただけに、子どもたちの興味・関心が高まり、花が咲き、実が大きくなっていく過程を掴むきっかけになった。
- ・「野菜は植えたけど、花は植えてない」というA児の投げかけが、「キュウリが大きくなった」ではなく、「本物になった」という気持ちのこもった子どもらしい観察力につながったのではないかと。

みどころ

子どもたちが、自分で選んだ野菜の苗に愛着をもって世話をしたり、収穫を楽しみにしたりする様子が見えます。友達が発した素朴な疑問によって、さらに野菜の生長に関心が高まり、花の後に生った小さな野菜の発見を喜んだり、一番最初に収穫できた保育者のキュウリをみんなで味わったりして、収穫への期待が膨らんでいます。収穫への期待感が、よく観て大切に育てる気持ちにつながり、自然の不思議さに驚いたり、感動したりする「科学する心」が育まれる体験となっています。